



Weekly 第170号

個室ユニット推進協ニュース

【発行】一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会

〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町171-1 TEL: 045-921-0462 / FAX: 045-921-0472

直近の介護関連ニュース(ダイジェスト版)をお届けします。今週号は2020(令和2)年8月31日(月)9月6日(日)までの1週間。計2枚。詳細は厚生労働省や各団体のHPなどで確認してください。**赤字は重要ニュース**。推進協HPで過去分を読めます。

■8月の感染 過去最多の約3万1000人 7月の1.8倍(9月1日)

8月の新型コロナウイルス感染症患者は約3万1000人で過去最多の7月の約1.8倍となった。東京圏や愛知、大阪、福岡などで急増し、地方へも拡大したが、8月上旬をピークに減少が続いている。

■「差別・偏見」の対策を提言へ 政府分科会WG(9月1日)

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部のワーキングチームは患者や家族、医療機関従事者などに對する差別や偏見などについて議論した。今後、感染情報の在り方や対策などについて議論し、提言をまとめる。

■有効求人倍率 7カ月連続して悪化 厚労省の7月調査(9月1日)

厚労省の調査によると、新型コロナの影響の影響などで7月の有効求人倍率は前月より0.03ポイント低い1.08倍で7カ月連続して悪化した。8月31日時点、解雇や雇止めのため失職した人は5万0326人に上った。

■高齢者のインフルワクチン無料化 東京都(9月2日)

東京都は高齢者を対象とするインフルエンザワクチン接種を無料とする方針を決めた。新型コロナウイルス感染症との同時流行を阻止する狙い。また高齢者施設や医療機関の職員や入所者を対象に新型コロナウイルス感染症のPCR検査を無償で実施。いずれも補正予算で事業化する。一方、政府は新型コロナワクチンの無償接種を検討している。

■新首相の選出は16日 与野党が合意(9月2日)

与野党は安倍首相の後継を選出する首相指名選挙を16日の臨時国会で実施することで合意した。自民党は総裁選挙を14日に実施。菅義偉官房長官、石破茂元幹事長、岸田文雄政調会長が出馬。

■全国老施協 プラス改定を要望 21年度介護報酬改定で提案（9月3日）

全国老人福祉施設協議会（全国老施協）は21年度介護報酬改定に関する提案書を厚労省の土生栄二老健局長に提出した。「施設の33.8%が赤字経営であり、マイナス改定はありえない」として基本報酬プラス改定などを求めている。個室ユニット関係では人員配置の見直しを要望している。

■英ゼネカ 日本で新型コロナワクチンの治験を開始（9月4日）

英アストラゼネカの日本法人は開発中の新型コロナウイルスワクチンの治験（臨床試験）を日本国内で開始したと発表した。同社は日本政府とワクチン供給（1億2000万回分）で合意している。大阪大学とアンジェラス、米ジョンソン・エンド・ジョンソンも日本で治験に入っている。

■新テーマ「感染症・災害」21年度改定の議論“第2ラウンド”（9月4日）

第184回介護給付費分科会は、21年度介護報酬改定の分野横断的なテーマとして「感染症や災害への対応力強化」を追加し、“第2ラウンド”の議論を開始した＝「推進協ニュース」9月号に掲載予定。介護報酬改定をめぐる論点と意見は以下の通り。

【感染症や災害への対応力強化】

<論点> ■発生時や業務継続の運営基準を踏まえた取り組み ■業務継続計画（BCP）の策定の推進 ■介護報酬の臨時的な取扱い（新型コロナ特例措置）。

【主な意見】「職員不足の解消が不可欠であり、基本報酬の引き上げが必要」「BCP策定を努力義務としたらどうか」「臨時的な報酬の取扱いを恒久的な報酬にすべき」（「利用者負担増になっている」と反対も）「介護慰労金（支給制度）を延長できないか」など。

【地域包括ケアシステムの推進】

<論点> ■医療連携と看取りへの対応「中重度者の対応強化」「個人の尊厳や本人の意思に沿ったケア」 ■認知症の対応力向上「認知症関連加算の算定状況や在り方」「的確なアセスメントやケア手法の標準化のため科学的効果に裏付けられた介護」「介護に関わる全ての認知症対応力の向上」 ■地域の特性に応じたサービスの確保「小規模多機能型居宅介護のサービス確保」「地域格差を解消するため地方では措置の一部を復活させたらどうか」。

【主な意見】「特養より老健の方が看取りの割合が高いのは医師が居るかどうかの違いが大きい」「介護ロボットやICTの活用によって効率化を図るべき」（職員の負担増につながる一と反対も）「認知症の加算算定率がどこも低い。検証や整理が必要だ」「研修ではできる限り、座学をオンライン化、リモート化した方が良い」「算定率の高い加算は基本報酬に繰り入れるべきではないか」など。